

1 英語学科における教職課程の理念

グローバル化と情報化が急速に進む中で、教師に求められる知識や能力、資質も大きく変化しています。今や、英語圏のみならず、世界の非英語圏の国々の間でも互いに国境を越えて交わされる情報の80%から90%近くが英語を通して行われると言われていいますので、英語は、今や国際的コミュニケーションには欠かせないツールとなっています。以前のように英語を読んで訳せば事が足りるという時代ではありません。コミュニケーション能力として、英語の4技能の全ての力が等しく求められているのがまさに現代だといえます。

英語教師を目指す者は、今の時代が求めているものをしっかり認識する必要があります。英語を指導するためには、英語の構造的な知識を持つことは、従来と同様に大切なことですが、それに加えて、実際的な様々な場面で英語を使ってコミュニケーションをする能力が、英語教師にとって必須の条件になっています。さらに、いろんな国の文化や社会習慣などを積極的に理解しようとする姿勢や態度、日本の文化や歴史、人々の生活の様子を外国の人々に積極的に発信する能力も求められます。これらは、授業での学習だけでなく、海外への留学や研修に参加したり、学外での様々なボランティア活動に積極的に参加したりすることで、培うことができる能力です。インターネットの驚異的な発達によって、海外の人たちと双方向で交わることは、日本のどこに住んでいようとも、今や容易に実現できるようになりました。

英語の教科を通して、あるいは、他の教科と互いに連携し合いながら、次代を担う子どもたちを育てるためには、教師自身も常に自己研鑽を重ねて自ら成長する存在でなければなりません。英語教師として生徒の英語力や国際感覚を培うことに全力を尽くすことは勿論ですが、それと共に、生きる力、社会人としての基礎力を育てるために、学校を囲む地域と連携しながら生徒を育てることが重要です。

4年間の大学での学びを通して自己実現に挑戦することは、時として苦しいこともあります。教師として教壇に立つことを夢みる仲間と協力したり励まし合ったりすることで、目標に向かって研鑽を重ねてください。日々の学習や種々の活動を通して、教師になるために自分に何が求められているかを発見し、気づくことが、教職への道を着実に前進するための推進力となります。